



2022年度春季海外研修 BEVI-j分析結果

Discover your potential

SOKA University



■ 測定する「17の尺度」および「7領域」

i. 妥当性 (Validity Scales)

- Consistency (一貫性): 類似又は同一の内容を測っているが表現の異なる質問項目に対する、回答の一貫性
- Congruency (適合性): 統計的に推定できる回答パターンとの、回答の一致の程度

【高】・【低】と表示した尺度はフルスケールスコア (BEVIが測定しようとする「中心的本質」の全体スコア)算出の際の重み付けに利用
BEVI自体はスコアの高低について価値判断をしない(例えば宗教)。ただし、大学また教員は価値判断を行う (EX: 14のスコアが高い人はジェンダーの考えが保守的)

ii. 形成的因子 (Formative Variables)

1. Negative Life Events (人生における負の出来事): 困難な子ども時代、問題を抱えていた両親、人生における葛藤/苦悶、多くの後悔

iii. 中核的欲求の満足度 (Fulfillment of Core Needs)

2. Needs Closure (欲求の抑圧): 不幸な生い立ち/生活史、いさかいの多い不安定な家族構造、物事が起こる原因/状態の原因についてのステレオタイプの思考/筋が通らない説明
3. Needs Fulfillment (欲求の達成) 【高】: 経験・欲求・感情に対してオープン、自分・他者・より広い世界に対する気遣い/思いやり
4. Identity Diffusion (アイデンティティへの否定的な度合い): アイデンティティの危機、結婚生活/家族生活についての否定的宿命論、自分や将来に対する「否定的な」感情

iv. 不均衡の許容 (Tolerance of Disequilibrium)

5. Basic Openness (基本的な開放性) 【高】: 基本的な思考、感情、欲求に対してオープンかつ率直
6. Self Certitude (自分に対する確信) 【低】: 強い意志、困難に対し言い訳することが我慢できない、ポジティブ思考を強調する、深い分析を好まない

v. 批判的思考 (Critical Thinking)

7. Basic Determinism (決定論・必然論的傾向) 【低】: 差異/行動について簡潔な説明を好む、人は変わらない/強者が生き残ると信じている、苦勞の多い生活史
8. Socioemotional Convergence (社会・情動の理解): 自己、他者、より広い世界を認識している/オープンである、思慮深く、実用主義、意思が固い、自立の必要性を認める一方で弱者を気遣うなど世界を白黒では捉えない

vi. 自己の理解・アクセス (Self Access)

9. Physical Resonance (身体への共鳴): 身体的欲求/感情の受容、経験主義、人間性/進化の影響を評価する (例: 「私は自由な精神の持ち主だ」、「私の体は私の感情に敏感だ」など)
10. Emotional Attunement (感情の調整) 【高】: 感情に動かされやすい、傷つきやすい、社会的、愛情を求めている、親和的、愛情表現に価値を置く、家族関係が親密
11. Self Awareness (自己認識) 【高】: 内省的、自己の複雑性を受け入れる、人の経験/状態を気遣う、難しい思考/感情を許容する
12. Meaning Quest (意味の探求): 物事の意味を模索する、人生にバランスを求める、耐性がある/根気が強い、感受性が高い、弱者への思いやり

vii. 他者の理解・アクセス (Other Access)

13. Religious Traditionalism (宗教的伝統主義、信仰心) 【低】: 宗教心があつい、自己/行動/出来事を神/霊的な力によるものとする、「来世」を信じる
14. Gender traditionalism (ジェンダー的伝統主義) 【低】: 男性と女性はある型にはまるよう創られている、伝統的/単純なジェンダー観やジェンダーの役割を好む
15. Sociocultural Openness (社会文化的オープン性) 【高】: 文化、経済、教育、環境、ジェンダー/国際関係、政治の分野におけるさまざまな行動、政策及び実践について進歩的/オープンである

viii. 世界の理解 (Global Access)

16. Ecological Resonance (生態との共鳴) 【高】: 環境/持続可能性の問題に深く関与している。地球/自然界の将来を懸念している
17. Global Resonance (世界との共鳴) 【高】: さまざまな個人、集団、言語、文化について学ぶこと/出会うことを努力している。グローバル社会への関与を望んでいる

グループ平均 (まとめ)

- 色付けされている尺度が、フルスケールスコアと呼ばれるものであり、BEVIが測定しようとしている、基本的な開放性、異文化への許容性、宗教的また社会的実践、ステレオタイプな思考の許容 (またはその否定)、「自己」と感情認識、また他の人々や文化がなぜそのように行動するのかを説明しようとする思考パターンなどの「中心的本質」の全体スコアをあらわします。

- 緑色に変化がなかった尺度、赤色がフルスケールスコアを減少させた尺度、青色がフルスケールスコアを増加させた尺度を表します。

- フルスケールスコア以外の尺度については、すべて一律で黒色になっています。

グループ平均 国際部主催研修（まとめ）

研修名	②形成的因子 (Formative Variables)	③中核的欲求の満足度 (Fulfillment of Core Needs)	④不均衡の許容 (Tolerance of Disequilibrium)	⑤批判的思考 (Critical Thinking)
国際部 昌原大学研修	自身の生い立ちへの認識に変化はなかった。(尺度1)	・家庭環境や生活への欲求を抑圧しなくなった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対する感情を抑えるようになった。(尺度3) ・将来への否定的な感情が減少した。(尺度4)	・基本的な思考、感情、欲求に対するオープンさは変化がなかった。(尺度5) ・物事を決めつける思考が弱くなった。(尺度6)	・ひとは変わらないなどの決定論的思考の度合いに変化はなかった。(尺度7) ・より広い世界への認識に変化はなく、弱者を気遣うなどの配慮の度合いに変化はなかった。(尺度8)
国際部 アルカラ大学研修	自身の生い立ちが困難であったとの認識が弱くなった。(尺度1)	・家庭環境や生活への欲求を抑圧する度合いに変化はなかった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対するオープンさに変化がなかった。(尺度3) ・将来への否定的な感情に変化はなかった。(尺度4)	・基本的な思考、感情、欲求に対するオープンさが増加した。(尺度5) ・物事を決めつける思考が強くなった。(尺度6)	・ひとは変わらないなどの決定論的思考の度合いに変化はなかった。(尺度7) ・より広い世界への認識が弱くなり、弱者を気遣うなどの配慮が乏しくなった。(尺度8)
国際部 トゥックアブドゥルラーマン大学研修	自身の生い立ちへの認識に変化はなかった。(尺度1)	・家庭環境や生活への欲求を抑圧する度合いに変化はなかった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対する感情をオープンにするようになった。(尺度3) ・将来への否定的な感情に変化はなかった。(尺度4)	・基本的な思考、感情、欲求に対するオープンさが増加した。(尺度5) ・物事を決めつける思考の度合いに変化はなかった。(尺度6)	・ひとは変わらないなどの決定論的思考の度合いに変化はなかった。(尺度7) ・より広い世界への認識が強くなり、弱者を気遣うなどの配慮ができるようになった。(尺度8)

Copyright © Soka University. All Rights Reserved.

グループ平均 国際部主催研修（まとめ）

研修名	⑥自己の理解・アクセス (Self Access)	⑦他者の理解・アクセス (Other Access)	⑧世界の理解 (Global Access)
国際部 昌原大学研修	・身体的欲求を受入し難くなった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置かなくなった。(尺度10) ・自己の複雑性を許容し難くなった。(尺度11) ・意味を模索する度合いが減少した。(尺度12)	・宗教的伝統主義の思考が弱くなった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考が強くなった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさが減少した。(尺度15)	・環境問題への共感が弱くなり、自然界の将来への懸念が減少した。(尺度16) ・グローバル社会への関心が減少した。(尺度17)
国際部 アルカラ大学研修	・身体的欲求の受入には変化がなかった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置く度合いは変化がなかった。(尺度10) ・自己の複雑性を許容できるようになった。(尺度11) ・意味を模索する度合いに変化はなかった。(尺度12)	・宗教的伝統主義に対する考え方には変化はなかった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考が強くなった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさには変化がなかった。(尺度15)	・環境問題への共感が強くなり、自然界の将来への懸念が増加した。(尺度16) ・グローバル社会への関心が減少した。(尺度17)
国際部 トゥックアブドゥルラーマン大学研修	・身体的欲求を受入するようになった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置くようになった。(尺度10) ・自己の複雑性の許容には変化がなかった。(尺度11) ・意味を模索する度合いに変化はなかった。(尺度12)	・宗教的伝統主義に対する考え方には変化はなかった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさが増加した。(尺度15)	・環境問題への共感、自然界の将来への懸念に変化はなかった。(尺度16) ・グローバル社会への関心が増加した。(尺度17)

Copyright © Soka University. All Rights Reserved.

グループ平均 国際部主催研修（まとめ）

研修名	②形成的因子 (Formative Variables)	③中核的欲求の満足度 (Fulfillment of Core Needs)	④不均衡の許容 (Tolerance of Disequilibrium)	⑤批判的思考 (Critical Thinking)
国際部 ナイロビ大学研修	自身の生い立ちへの認識に変化はなかった。(尺度1)	・家庭環境や生活への欲求を抑圧する度合いに変化はなかった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対するオープンさに変化がなかった。(尺度3) ・将来への否定的な感情に変化はなかった。(尺度4)	・基本的な思考、感情、欲求に対するオープンさが減少した。(尺度5) ・物事を決めつける思考の度合いに変化はなかった。(尺度6)	・ひとは変わらないなどの決定論的思考の度合いに変化はなかった。(尺度7) ・より広い世界への認識に変化はなく、弱者を気遣うなどの配慮の度合いに変化はなかった。(尺度8)
国際部 南イリノイ大学研修	自身の生い立ちへの認識に変化はなかった。(尺度1)	・家庭環境や生活への欲求を抑圧しなくなった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対する感情をオープンにするようになった。(尺度3) ・将来への否定的な感情に変化はなかった。(尺度4)	・基本的な思考、感情、欲求に対するオープンさは変化がなかった。(尺度5) ・物事を決めつける思考の度合いに変化はなかった。(尺度6)	・ひとは変わらないなどの決定論的思考が弱くなった。(尺度7) ・より広い世界への認識が強くなり、弱者を気遣うなどの配慮ができるようになった。(尺度8)
国際部 ベトナム・インターンシップ	自身の生い立ちが困難であったとの認識が弱くなった。(尺度1)	・家庭環境や生活への欲求を抑圧しなくなった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対するオープンさに変化がなかった。(尺度3) ・将来への否定的な感情に変化はなかった。(尺度4)	・基本的な思考、感情、欲求に対するオープンさが減少した。(尺度5) ・物事を決めつける思考が強くなった。(尺度6)	・ひとは変わらないなどの決定論的思考の度合いに変化はなかった。(尺度7) ・より広い世界への認識に変化はなく、弱者を気遣うなどの配慮の度合いに変化はなかった。(尺度8)

Copyright © Soka University. All Rights Reserved.

グループ平均 国際部主催研修（まとめ）

研修名	⑥自己の理解・アクセス (Self Access)	⑦他者の理解・アクセス (Other Access)	⑧世界の理解 (Global Access)
国際部 ナイロビ大学研修	・身体的欲求を受入するようになった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置かなくなった。(尺度10) ・自己の複雑性を許容し難くなった。(尺度11) ・意味を模索する度合いに変化はなかった。(尺度12)	・宗教的伝統主義の思考が弱くなった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさには変化がなかった。(尺度15)	・環境問題への共感が強くなり、自然界の将来への懸念が増加した。(尺度16) ・グローバル社会への関心が増加した。(尺度17)
国際部 南イリノイ大学研修	・身体的欲求を受入するようになった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置くようになった。(尺度10) ・自己の複雑性を許容できるようになった。(尺度11) ・意味を模索する度合いが増加した。(尺度12)	・宗教的伝統主義に対する考え方に変化はなかった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさが増加した。(尺度15)	・環境問題への共感が強くなり、自然界の将来への懸念が増加した。(尺度16) ・グローバル社会への関心が増加した。(尺度17)
国際部 ベトナム・インターンシップ	・身体的欲求を受入するようになった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置く度合いは変化がなかった。(尺度10) ・自己の複雑性の許容には変化がなかった。(尺度11) ・意味を模索する度合いに変化はなかった。(尺度12)	・宗教的伝統主義の思考が弱くなった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさには変化がなかった。(尺度15)	・環境問題への共感が弱くなり、自然界の将来への懸念が減少した。(尺度16) ・グローバル社会への関心が増加した。(尺度17)

Copyright © Soka University. All Rights Reserved.

グループ平均 WLC・GCP主催研修（まとめ）

研修名	②形成因子 (Formative Variables)	③中核的欲求の満足度 (Fulfillment of Core Needs)	④不均衡の許容 (Tolerance of Disequilibrium)	⑤批判的思考 (Critical Thinking)
WLC イースト大学 研修1期 (ヒマラヤ)	自身の生い立ちへの認識に変化はなかった。(尺度1)	・家庭環境や生活への欲求を抑圧する度合いに変化はなかった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対する感情を抑えるようになった。(尺度3) ・将来への否定的な感情に変化はなかった。(尺度4)	・基本的な思考、感情、欲求に対するオープンさが減少した。(尺度5) ・物事を決めつける思考が弱くなった。(尺度6)	・ひとは変わらないなどの決定論的思考の度合いに変化はなかった。(尺度7) ・より広い世界への認識に変化はなく、弱者を気遣うなどの配慮の度合いに変化はなかった。(尺度8)
WLC イースト大学 研修2期	自身の生い立ちへの認識に変化はなかった。(尺度1)	・家庭環境や生活への欲求を抑圧する度合いに変化はなかった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対する感情をオープンにするようになった。(尺度3) ・将来への否定的な感情に変化はなかった。(尺度4)	・基本的な思考、感情、欲求に対するオープンさが減少した。(尺度5) ・物事を決めつける思考の度合いに変化はなかった。(尺度6)	・ひとは変わらないなどの決定論的思考の度合いに変化はなかった。(尺度7) ・より広い世界への認識が強くなり、弱者を気遣うなどの配慮ができるようになった。(尺度8)
WLC イースト大学 研修3期	自身の生い立ちへの認識に変化はなかった。(尺度1)	・家庭環境や生活への欲求を抑圧する度合いに変化はなかった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対するオープンさに変化がなかった。(尺度3) ・将来への否定的な感情に変化はなかった。(尺度4)	・基本的な思考、感情、欲求に対するオープンさは変化がなかった。(尺度5) ・物事を決めつける思考の度合いに変化はなかった。(尺度6)	・ひとは変わらないなどの決定論的思考の度合いに変化はなかった。(尺度7) ・より広い世界への認識に変化はなく、弱者を気遣うなどの配慮の度合いに変化はなかった。(尺度8)
GCP フィリピン研修	自身の生い立ちへの認識に変化はなかった。(尺度1)	・家庭環境や生活への欲求を抑圧する度合いに変化はなかった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対する感情を抑えるようになった。(尺度3) ・将来への否定的な感情が減少した。(尺度4)	・基本的な思考、感情、欲求に対するオープンさは変化がなかった。(尺度5) ・物事を決めつける思考の度合いに変化はなかった。(尺度6)	・ひとは変わらないなどの決定論的思考の度合いに変化はなかった。(尺度7) ・より広い世界への認識が弱くなり、弱者を気遣うなどの配慮が乏しくなった。(尺度8)

グループ平均 WLC・GCP主催研修（まとめ）

研修名	⑥自己の理解・アクセス (Self Access)	⑦他者の理解・アクセス (Other Access)	⑧世界の理解 (Global Access)
WLC イースト大学 研修1期 (ヒマラヤ)	・身体的欲求の受入には変化がなかった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置く度合いは変化がなかった。(尺度10) ・自己の複雑性の許容には変化がなかった。(尺度11) ・意味を模索する度合いに変化はなかった。(尺度12)	・宗教的伝統主義に対する考え方に変化はなかった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考が弱くなった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさが増加した。(尺度15)	・環境問題への共感、自然界の将来への懸念に変化はなかった。(尺度16) ・グローバル社会への関心に変化はなかった。(尺度17)
WLC イースト大学 研修2期	・身体的欲求を受入るようになった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置く度合いは変化がなかった。(尺度10) ・自己の複雑性の許容には変化がなかった。(尺度11) ・意味を模索する度合いに変化はなかった。(尺度12)	・宗教的伝統主義に対する考え方に変化はなかった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさが増加した。(尺度15)	・環境問題への共感が強くなり、自然界の将来への懸念が増加した。(尺度16) ・グローバル社会への関心が増加した。(尺度17)
WLC イースト大学 研修3期	・身体的欲求の受入には変化がなかった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置くようになった。(尺度10) ・自己の複雑性の許容には変化がなかった。(尺度11) ・意味を模索する度合いに変化はなかった。(尺度12)	・宗教的伝統主義の思考が強くなった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考が弱くなった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさが増加した。(尺度15)	・環境問題への共感、自然界の将来への懸念に変化はなかった。(尺度16) ・グローバル社会への関心に変化はなかった。(尺度17)
GCP フィリピン 研修	・身体的欲求の受入には変化がなかった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置く度合いは変化がなかった。(尺度10) ・自己の複雑性を許容し難くなった。(尺度11) ・意味を模索する度合いが減少した。(尺度12)	・宗教的伝統主義に対する考え方に変化はなかった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさが減少した。(尺度15)	・環境問題への共感、自然界の将来への懸念に変化はなかった。(尺度16) ・グローバル社会への関心が減少した。(尺度17)

グループ平均 学部主催研修（まとめ）

研修名	②形成的因子 (Formative Variables)	③中核的欲求の満足度 (Fulfillment of Core Needs)	④不均衡の許容 (Tolerance of Disequilibrium)	⑤批判的思考 (Critical Thinking)
教育学部	自身の生い立ちへの認識に変化はなかった。(尺度1)	・家庭環境や生活への欲求を抑圧する度合いに変化はなかった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対する感情をオープンにするようになった。(尺度3) ・将来への否定的な感情が減少した。(尺度4)	・基本的な思考、感情、欲求をオープンさは変化がなかった。(尺度5) ・物事を決めつける思考の度合いに変化はなかった。(尺度6)	・ひとは変わらないなどの決定論的思考が弱くなった。(尺度7) ・より広い世界への認識が強くなり、弱者を気遣うなどの配慮ができるようになった。(尺度8)
理工学部	自身の生い立ちへの認識に変化はなかった。(尺度1)	・家庭環境や生活への欲求を抑圧する度合いに変化はなかった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対するオープンさに変化がなかった。(尺度3) ・将来への否定的な感情に変化はなかった。(尺度4)	・基本的な思考、感情、欲求をオープンさが減少した。(尺度5) ・物事を決めつける思考の度合いに変化はなかった。(尺度6)	・ひとは変わらないなどの決定論的思考の度合いに変化はなかった。(尺度7) ・より広い世界への認識に変化はなく、弱者を気遣うなどの配慮の度合いに変化はなかった。(尺度8)
看護学部	自身の生い立ちが困難であったとの認識が弱くなった。(尺度1)	・家庭環境や生活への欲求を抑圧しなくなった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対するオープンさに変化がなかった。(尺度3) ・将来への否定的な感情が減少した。(尺度4)	・基本的な思考、感情、欲求をオープンさが減少した。(尺度5) ・物事を決めつける思考が弱くなった。(尺度6)	・ひとは変わらないなどの決定論的思考が強くなった。(尺度7) ・より広い世界への認識に変化はなく、弱者を気遣うなどの配慮の度合いに変化はなかった。(尺度8)

Copyright © Soka University. All Rights Reserved.

グループ平均 学部主催研修（まとめ）

研修名	⑥自己の理解・アクセス (Self Access)	⑦他者の理解・アクセス (Other Access)	⑧世界の理解 (Global Access)
教育学部	・身体的欲求を受入るようになった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置く度合いは変化がなかった。(尺度10) ・自己の複雑性の許容には変化がなかった。(尺度11) ・意味を模索する度合いが増加した。(尺度12)	・宗教的伝統主義の思考が弱くなった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさが増加した。(尺度15)	・環境問題への共感が強くなり、自然界の将来への懸念が増加した。(尺度16) ・グローバル社会への関心が増加した。(尺度17)
理工学部	・身体的欲求を受入し難くなった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置くようになった。(尺度10) ・自己の複雑性を許容できるようになった。(尺度11) ・意味を模索する度合いが増加した。(尺度12)	・宗教的伝統主義の思考が弱くなった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさには変化がなかった。(尺度15)	・環境問題への共感、自然界の将来への懸念に変化はなかった。(尺度16) ・グローバル社会への関心が減少した。(尺度17)
看護学部	・身体的欲求の受入には変化がなかった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置く度合いは変化がなかった。(尺度10) ・自己の複雑性を許容し難くなった。(尺度11) ・意味を模索する度合いが減少した。(尺度12)	・宗教的伝統主義の思考が弱くなった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考が弱くなった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさが増加した。(尺度15)	・環境問題への共感が強くなり、自然界の将来への懸念が増加した。(尺度16) ・グローバル社会への関心が増加した。(尺度17)

Copyright © Soka University. All Rights Reserved.

【国際部 トウクアブドゥルラーマン大学研修】 のBEVI-jによる分析

期間： 2023年2月7日～2月19日

参加者： 13名

研修目的： 語学・文化研修

研修内容： 自然に囲まれた環境の中で、国際性を磨きながら語学学修に取り組めるプログラム。
課外活動として、さまざまな文化体験もあり。

トウクアブドゥルラーマン大学 (n=11)



【国際部 ナイロビ大学研修】 のBEVI-jによる分析

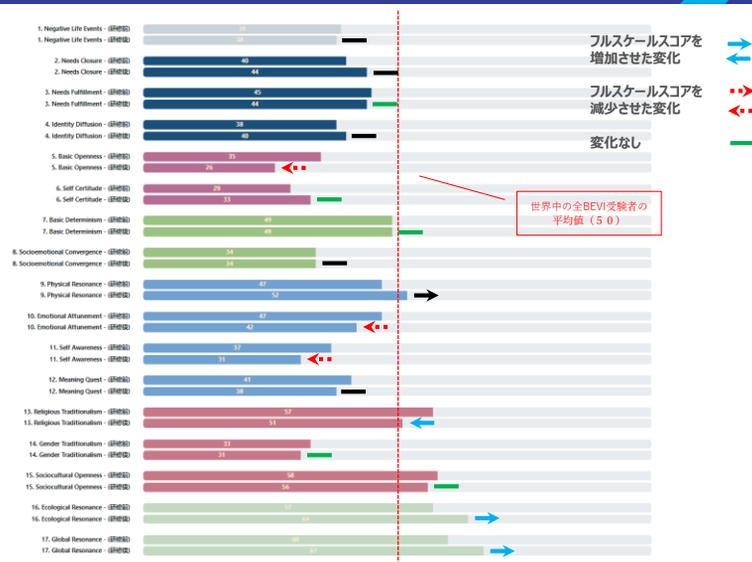
期間： 2023年2月7日～2月25日

参加者： 16名

研修目的： 語学・文化研修

研修内容： スワヒリ語会話とアフリカ事情(英語)の講義やフィールドワーク中心のアクティビティを実施予定。サファリ体験、現地フリースクールでの子ども達との交流、国際機関訪問等の課外活動もあり。

ナイロビ大学 (n=11)



【国際部 南イリノイ大学研修】 のBEVI-jによる分析

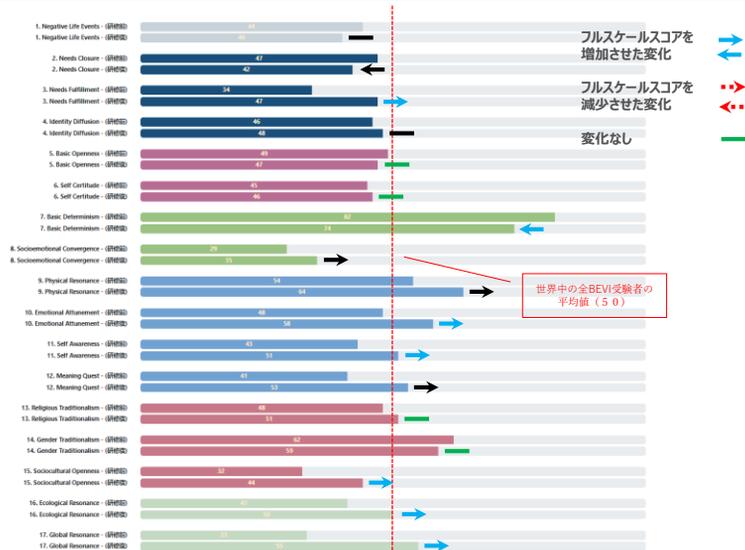
期間： 2023年2月9日～3月5日

参加者： 16名

研修目的： 語学・文化研修

研修内容： 週10時間の授業と週10時間のコミュニティアクティビティを通して、教室での集中的な英語力の向上と、実生活での応用力を身につけるプログラム。

南イリノイ大学 (n=14)



【WLCイースト大学研修1期(ヒマラヤ)研修]のBEVI-jによる分析

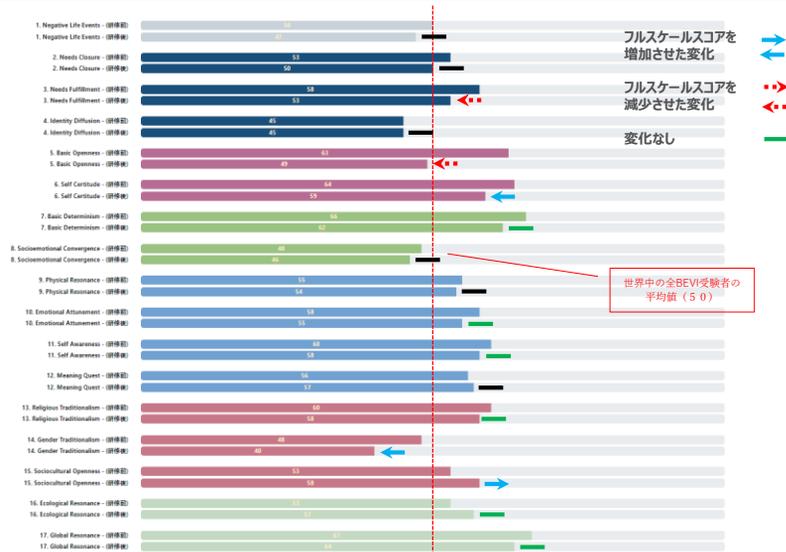
期間： 2023年2月12日～2月22日

参加者： 27名

研修目的： 語学研修

研修内容： 事前・事後研修や現地学生との交流等を通して、語学習得を目指す、イースト大学の英語教員と共同でカスタマイズした語学研修。

イースト大学研修1期・ヒマラヤG (n=22)



【WLCイースト大学研修2期】 のBEVI-jによる分析

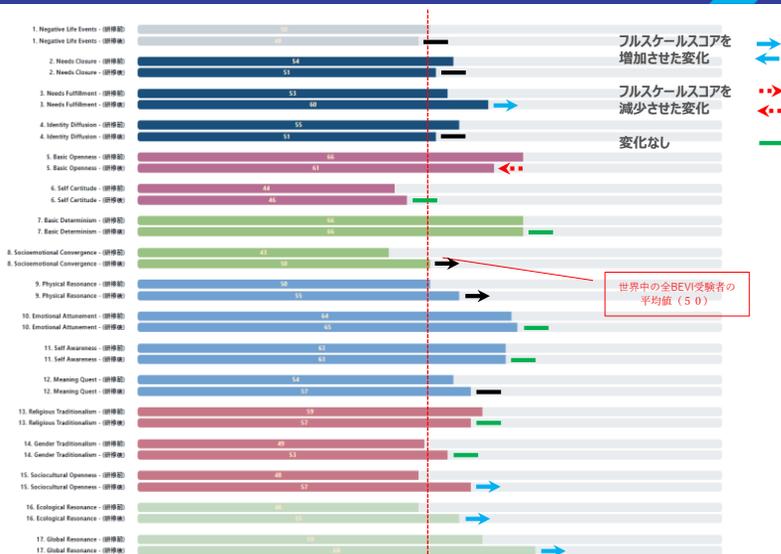
期間： 2023年2月26日～3月8日

参加者： 26名

研修目的： 語学研修

研修内容： 事前・事後研修や現地学生との交流等を通して、語学習得を目指す、イースト大学の英語教員と共同でカスタマイズした語学研修。

イースト大学研修2期 (n=20)



【WLCイースト大学研修3期】 のBEVI-jによる分析

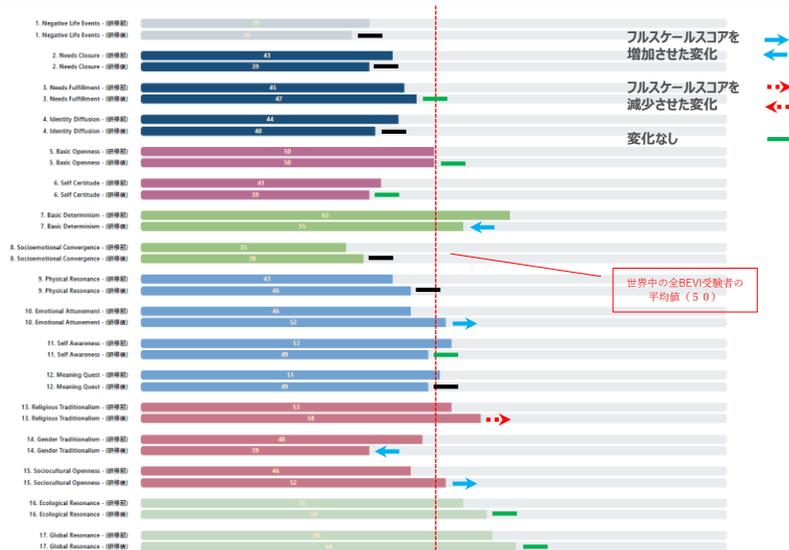
期間： 2023年3月12日～3月22日

参加者： 22名

研修目的： 語学研修

研修内容： 事前・事後研修や現地学生との交流等を通して、語学習得を目指す、イースト大学の英語教員と共同でカスタマイズした語学研修。

イースト大学研修3期 (n=19)



【 Global Citizenship Program (GCP) フィリピン大学研修】のBEVI-jによる分析

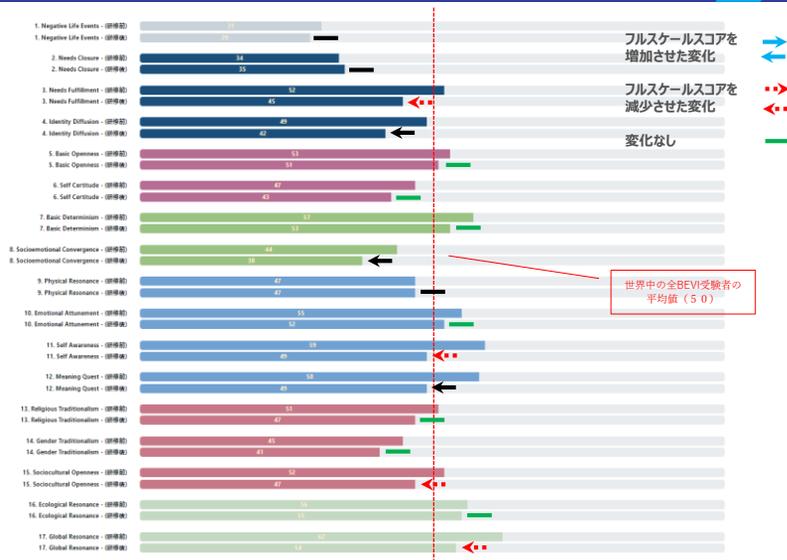
期間： 2023年2月11日～2月22日

参加者： 26名

研修目的： フィールドリサーチ等

研修内容： フィリピンの諸事情やグローバルイゼーション、開発途上国の問題に関する講義等。事前学習あり。

GCPフィリピン (n=25)



【教育学部 北米教育研修】 のBEVI-jによる分析

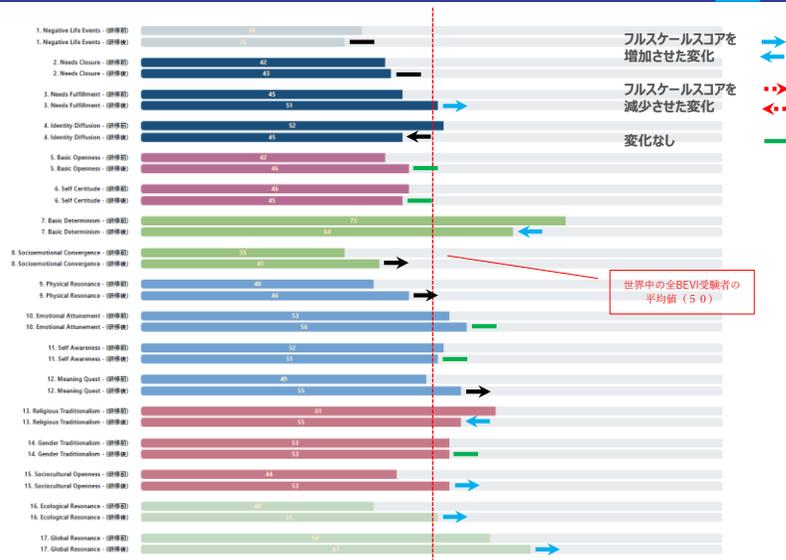
期間： 2023年2月12日～3月12日

参加者： 19名

研修目的： 語学・教育学研修

研修内容： 英語研修を受講すると共に、交流校での教育学の講義を受講したり、私立小中高一貫校を訪問し、授業見学や意見交換を行う。

教育学部 北米教育研修 (n=13)



【理工学部 国際技術協力EP海外研修 (インドネシア) のBEVI-jlによる分析

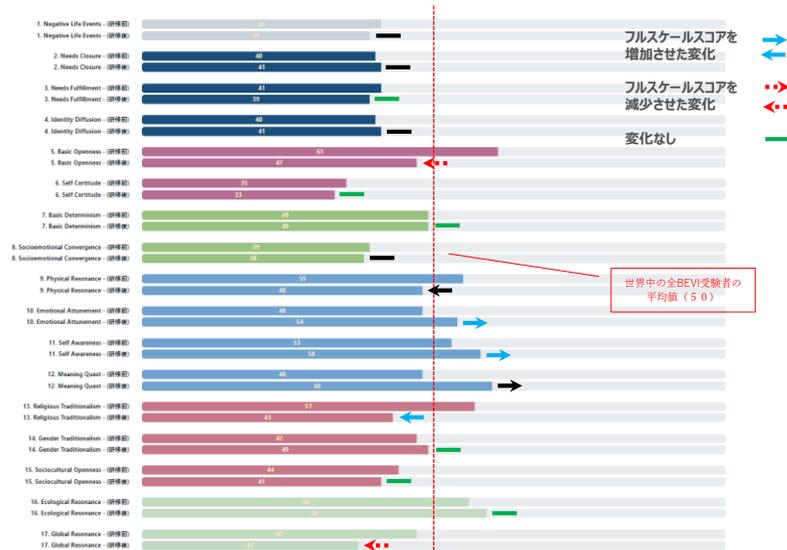
期間： 2023年2月22日～3月9日

参加者： 8名

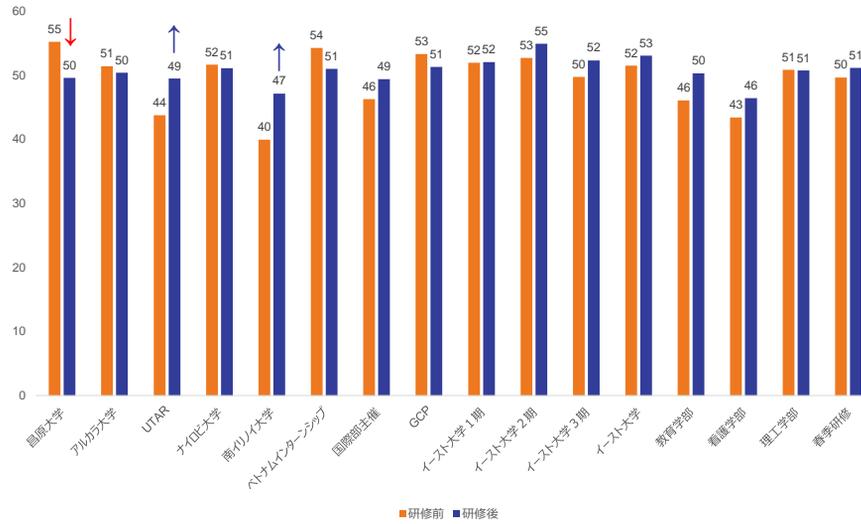
研修目的： 理工学の基礎知識と工学技術を、発展途上国、新興国等へ展開できる国際性豊かな人材の育成。

研修内容： 英語コミュニケーションスキルの講義、文化交流および、国際技術協力に関する研修（インドネシア語と伝統文化・工芸の学習と生活体験、国際技術協力に関する講義とコミュニケーション、プレゼンテーション研修）、フィールドワーク。

理工学部 国際技術協力EP海外研修 (n=7)

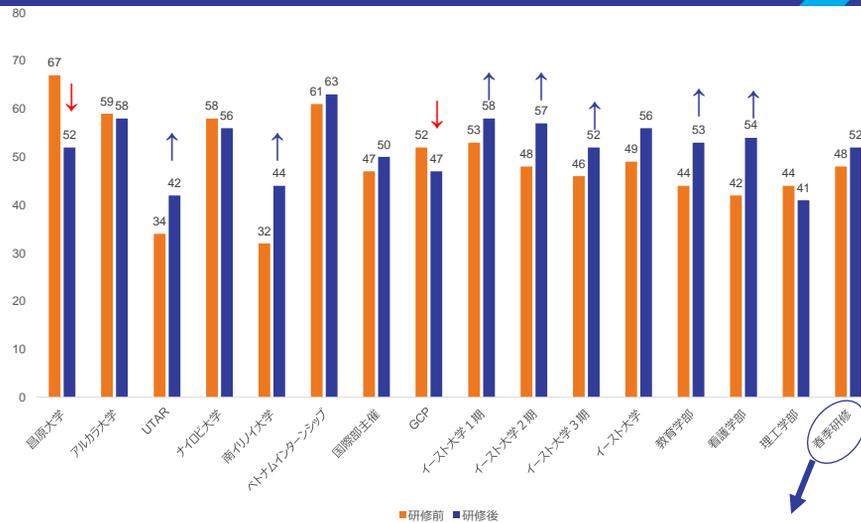


フルスケールスコアの変化



Copyright © Soka University. All Rights Reserved.

尺度15：社会文化的オープン性 (n=161)



	1.24%	13.04%	10.56%	10.56%	19.25%	11.18%	12.42%	9.32%	9.32%	3.11%
15. Sociocultural Openness (研修前)										
15. Sociocultural Openness (研修後)	4.35%	8.7%	9.94%	13.04%	6.83%	12.42%	10.56%	19.25%	13.04%	1.66%
Decile	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

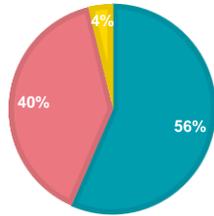
Copyright © Soka University. All Rights Reserved.

尺度15：社会文化的オープン性

研修前後で尺度15が増加した学生の割合/人数

AY2022 春季研修

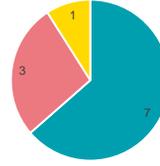
■増加 ■減少 ■変化なし



南イリノイ大学



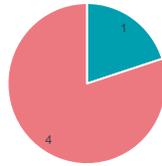
トゥンクアブドゥルラーマン大学



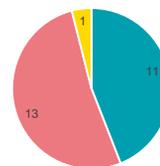
教育学部



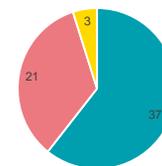
昌原大学



GCPフィリピン

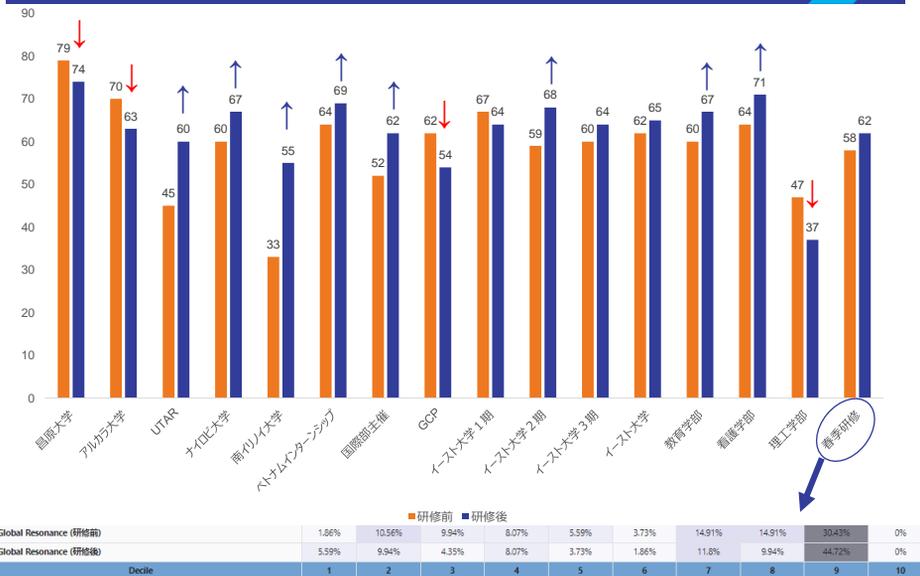


イースト大学



Copyright © Soka University. All Rights Reserved.

尺度17：世界との共鳴



	1.86%	10.56%	9.94%	8.07%	5.59%	3.73%	14.91%	14.91%	30.43%	0%
17. Global Resonance (研修前)										
17. Global Resonance (研修後)	5.59%	9.94%	4.35%	8.07%	3.73%	1.86%	11.8%	9.94%	44.72%	0%
Decile	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

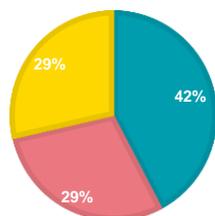
Copyright © Soka University. All Rights Reserved.

尺度17：世界との共鳴（n=161）

研修前後で尺度17が増加した学生の割合／人数

AY2022 春季研修

■増加 ■減少 ■変化なし



南イリノイ大学



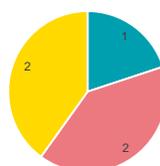
トゥンクアブドゥルラーマン大学



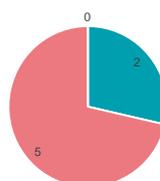
教育学部



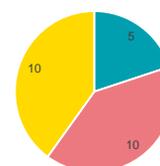
昌原大学



理工学部



GCPフィリピン



Copyright © Soka University. All Rights Reserved.

まとめ

- 国際性に関連する尺度（尺度15・17）については、多くの研修で「社会、文化に対するオープンさ」や「グローバル社会への関心」が強まった結果が見られた。短期研修の大きな目的の一つであるため、その意味では効果があったと考える。
- 昌原大学研修、GCPフィリピン研修については、研修前のフルスケールスコアが他の研修と比べて高めの学生層であったが、国際性に関連する尺度の両方において「社会、文化に対するオープンさ」や「グローバル社会への関心」が強まった結果が見られた。両研修に共通するのは、「自身が重要だとしてきた思いや欲求が実現されているかどうか」を測定する尺度3（欲求の達成）と、「自分自身の事をより深く知り、自身の持つ感情や欲求をどれだけ自覚しているか、また感情表現を大切にするか」を測定する「自己の理解・アクセス」領域が研修前後で下がっている事。
- 昌原大学研修、GCPフィリピン研修は一見望ましくない結果に見えるが、研修が終了した時点では「まだ内面的な変化の途中である」と考える事もでき、研修後の振り返りなどを通してまた違った変化をもたらすこともできると考える。
- 南イリノイ大学研修、トゥンクアブドゥルラーマン大学研修については、尺度15・17に加えて、総合的なコンピテンシーを表すフルスケールスコアも研修前後で増加しており、総合的に見ても期待する効果が見られたと思われる。特に南イリノイ大学研修については、数値が増加した学生の割合も多い。

Copyright © Soka University. All Rights Reserved.



SOKA University